

説教

“Do what you love. Love what you do.”—— 過ぎ去ろうとしない神の愛

島田 由紀 大学宗教主任

神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。(ヨハネによる福音書 3章16節)

2021年春、青山学院から卒業される園児、児童、生徒、学生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。4月から皆さんが進まれる新たな人生の場において、青山学院での学びと経験とが皆さんの確かな礎となり、お一人おひとりが力強く歩みだされますよう、心よりお祈り申し上げます。

2020年度は誰にも予想のできなかったものでした。2020年春から私たちの行動は大きく制限され、オンラインでの学修という、少し前には想像すらしなかった生活様式を余儀なくされました。学ぶ者たち、教える教員、支えるご家族・職員、すべての人にとって心身への負担が大きな生活で、心がうつむきがちになった日々もありました。しかし、その中でも、荒れ地に一輪の花が咲くように、折々に気づきや学びが与えられてきました。振り返ってみれば、皆さんお一人おひとりに、不自由な状況にあっても、オンライン授業だったからこそ、気づいたこと、考えたこと、取り組めたことがあったのではないのでしょうか。

オンラインを通して、この一年、学生の皆さんが葛藤しながらさまざまにこの困難な時と向き合う姿に接しました。一人の学生のことを少しご紹介します。この学生は、青山学院の高等部から大学に進学したそうで、これまでに教わった聖書の言葉をよく心に留めており、青山学院の校風を大切に思い、私が担当したキリスト教科目のオンライン講義にも熱心に参加してくれました。あるアートの活動に一(私が推察するに)これからの人生を

賭けるかもしれないほどの熱意で一取り組んでいるようでした。

毎週丁寧に記された考察には、時折、このアート活動に触れる部分があり、良いものを制作したいという純粋な思いが伝わってきました。実習科目すらオンラインとなった落胆を記しつつ、気持ちはいつも制作活動に向かって、自分が今できることを考えていました。過去に独りよがりて人を傷つけてしまったことを振り返り、他者への配慮のない者によって制作されるものはそれ自体も他者への配慮を欠くと考察する文章は、とても興味深いものでした。青山学院のこのアートのサークル活動は、ゼロになりそうだったところを、皆で協力し、今ではプロと連携して他大学にはない独自の実績を作っているとのこと。

この学生の考察を読むと、「Do what you love. Love what you do.」という言葉が自然と心にのぼってきました。「あなたの愛することを為しなさい、あなたの為すことを愛しなさい」。地道な作業の困難も創り上げる喜びをも知るこの学生にとって、制作活動は、呼吸のように生そのものであって、それへの思いは愛にほかならないと感じられました。

「自分はクリスチャンではないけれど」と慎ましく前置きして綴られる、高等部以来学んできた聖書の言葉や今年度のオンライン礼拝説教についての考察の言葉も、制作を為す心や手、身体と結びつけられて語り出されていました。この学生は制作を通して、神の愛、主イエスの愛を確かに仰ぎ見ているようでした。多くの失敗やコロナ禍の制約にもか

かわらず、良いものを創りたいという、やみがたい溢れる思いを知るからこそ、どのような嵐や挫折のときにも人間を過ぎ去ろうとしない神の愛を、直観的に知っていると感じさせられました。

青山学院から卒業されていく皆さん、全世界的に先の見えない状況の中で、学び舎をあとにし新たな環境に入っていく不安は大きなものかもしれません。ことに、自分が選択肢をコントロールできない場面がかつてなく多いこの情勢です。しかし、このようなときだからこそ、お一人おひとりが、ご自分の生活のなかに《愛》の余地を持ってほしいと願います。あなたが(たとえ一瞬でも)損得を忘れて思いと手間とを注げることは何ですか。あなたが困難や失敗に直面しても、思いはそれに戻っていくことは、何でしょうか。

青山学院は、神の愛が皆さんの人生の礎とされるよう願ってきました。神こそは「Do what you love. Love what you do.」を究極においてなされるお方です。神は愛において皆さんお一人おひとりの生を形造られ、喜びをもってお一人おひとりの生へと関わられます。神によって造られた皆さんへの神の愛は、どのような困難があろうとも、やみがたいもの。神の愛は皆さんから過ぎ去ろうとしないのです。

皆さんが神の愛という確かな礎を知り、恐れることなく歩んでいかれますことを、切にお祈りいたします。

